

路地百選推薦書

推薦者氏名：鈴木 隆男

推薦する路地（のまち）の名称	川越菓子屋横丁
所在地	埼玉県川越市

【推薦する理由（路地のよいところ）】

蔵の街川越が観光地として多くの人々に知られ、素朴な手作り品への憧れ、郷愁を求めて、多くの人々で賑わうようになった。やや蛇行した細い路地に駄菓子屋が並び、その店先では、大人、子供の区別なく目を輝かせて、ところ狭しと並ぶ色とりどりの駄菓子に心を奪われている。

【写真添付】



路地	面積	約 h a	路地の延長	約 300m
のまちの概要	まちの成り立ち、特色等	菓子屋横丁は、明治の始めに鈴木藤左衛門氏がこの地に住み、江戸子好みの気取らない駄菓子を製造、販売したのが始まり。藤左衛門は、菓子作りに専念するとともに、親方として弟子を育てることに力を注いだと言われている。弟子たちは、藤左衛門氏からのれん分けをし、それぞれが独立して自らが親方となり、新たな弟子たちを育てた。戦時下には、人手と材料の不足によって仕事ができない状態に追い込まれていった。終戦を迎え、菓子屋横丁は早くも復活を遂げる。昭和 27 年頃には、41 軒の菓子商がすでに営業を行っていた。昭和 30 年代、厳しい労働条件、手作りに対する評価が下がるなどで後継者不足が起こり、大量製造・販売という経済、流通の変化にもさらされる。また、アメリカから入ってきたキャンディ、チョコレート、クッキーなどが好まれたことから、手作りの素朴な駄菓子には、目が向けられなくなった。また、再度の復活とすることになる。		

路地のまちの概要は記入できる範囲で結構です。それぞれの枠の大きさは各自で調整願います。